

植生調査方法について

既存資料、空中写真判読を参考に現地を踏査し、植生や土地利用の状況等の相観によって区分した植生図を作成した。

また、確認された植物群落について、ブロンーブランケ法により、その特徴の把握を行った。各植物群落を代表する箇所において方形枠（コドラート）を設置し、群落内の各階層（高木層、草本層等）に出現する植物種の種名、被度・群度等を記録した。この際、群落の階層構造を記録するため、断面模式図を作成するとともに、コドラート内の写真撮影を行った。コドラートの調査面積は、各群落の群落高を1辺とする正方形の面積を基本とし、適宜設定した。

調査時期を下表に示す。

表-1 植生の調査期間

調査実施日	
夏季	平成 24 年 7 月 26 日～8 月 1 日 平成 24 年 8 月 13 日～16 日
秋季	平成 24 年 10 月 31 日～11 月 2 日 平成 24 年 11 月 13 日～15 日

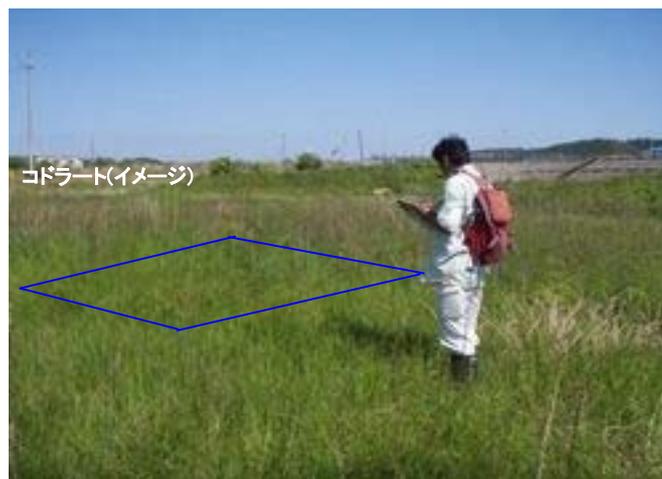
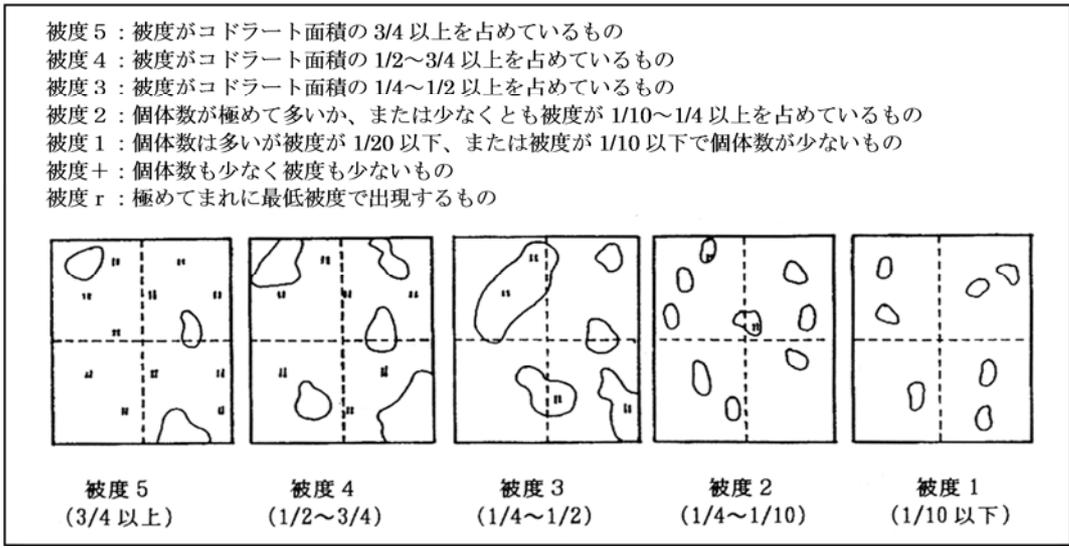
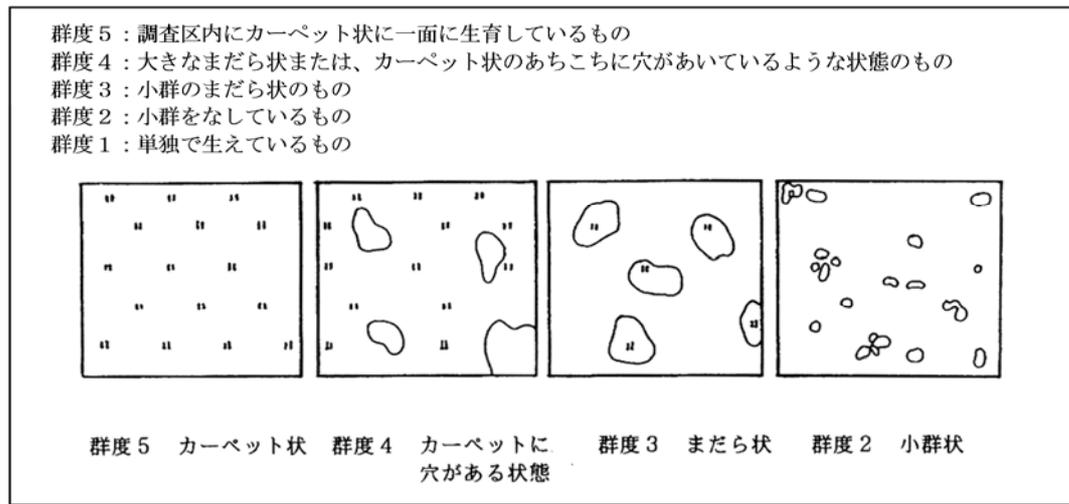


図-1 調査方法



被度：被度は群落内における、構成種の優占割合を被覆している指標が被度である。被度にはいろいろなものがあるが、現在広く用いられているのは、ブロンブランケの全推定法である。全推定法では、被度を、植物が地面を被覆する度合に個体数を合わせ、6～7の段階に区分している。



群度：群落内における、個々の植物の分布様式の指標として群度が用いられる。群度は上記のような、5段階に区分が用いられる。

図-3 コドラート調査法における被度・群度

出典：「平成9年度版 河川水辺の国勢調査マニュアル [河川版] (生物調査編)」